

週間火山概況 (平成 28 年 2 月 19 日～2 月 25 日)

【火山現象に関する警報等の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 2 月 25 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル 5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	入山危険	西之島※
	レベル 3（入山規制）	桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福德岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山（2 月 25 日現在）

この資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) にも掲載しています。

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

あづまやま 吾妻山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

火山活動はやや活発な状態で経過しています。

遠望カメラの観測では、大穴火口からの噴気の高さの最高は50mで、やや活発な状態が続いています。これまでの現地調査や上空からの観測で、大穴火口周辺の地熱域は2015年8月以降拡大は認められていません。火山性地震、火山性微動は観測されていません。

浄土平の傾斜計¹⁾では、2014年7月頃から西南西側（火口方向側）上がりの変動で推移した後、2015年7月頃から停滞していましたが、2015年9月頃から西側下りの傾向となっています。

GNSS²⁾連続観測では、2014年9月頃から一切経山の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015年7月頃から停滞しています。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね500mの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾、火山ガスに注意してください。

くさつしらねさん 草津白根山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

火山活動はやや活発な状態で経過しています。

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。また、東京工業大学によると、2015年9月以降、北側噴気地帯で噴気活動が活発化しています。北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分に、火山活動の活発化を示す変化が観測され、その状態が継続しています。

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加しましたが、2014年8月下旬以降概ね少ない状態で経過しています。

GNSS²⁾観測によると、湯釜を挟む基線で2014年4月頃からわずかな伸びの変化がみられていましたが、2015年4月頃より鈍化しています。また、湯釜周辺に東京工業大学が設置した傾斜計¹⁾によると、2014年3月から観測されている湯釜付近浅部での膨張を示す変動は、2015年11月頃から停滞傾向が認められます。全磁力⁴⁾観測によると、2014年5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014年7月以降停滞しています。

小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

あさまやま 浅間山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

火山活動はやや活発な状態で経過しています。

2015年6月19日の噴火後、噴火は観測されていません。今期間、山頂火口において火映⁵⁾は観測されませんでした。

火口からの噴煙は白色で、火口縁上300m以下で経過しています。

2015年4月下旬頃から増加している山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は、やや多い状態で経過しています（図2）。

光波測距観測⁶⁾では、2015年6月頃から山頂と追分の間でみられていた縮みの傾向が、10月頃から停滞しています。傾斜計¹⁾による地殻変動観測では、2015年6月上旬頃から緩やかな変化がみられており、鈍化しながらも継続しています。GNSS²⁾の観測で、2015年5月頃から浅間山を挟む基線でみられていたわずかな伸びは、10月頃から停滞しています。

山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意してください。

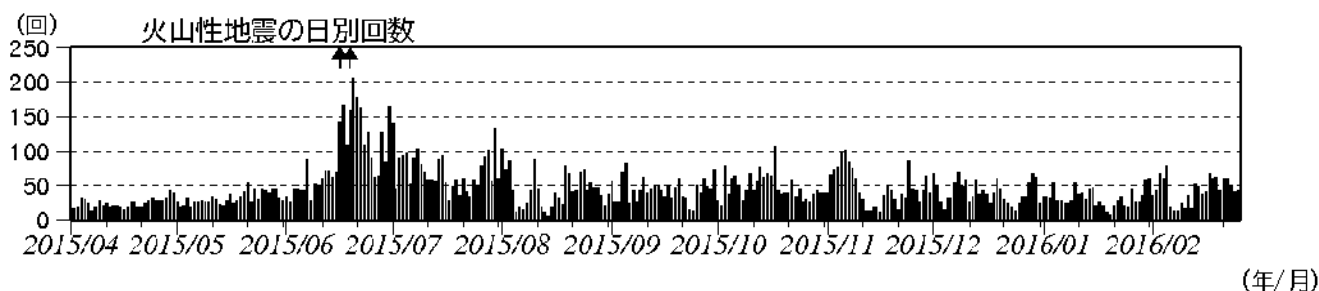


図2 浅間山 火山性地震の日別回数（2015年4月1日～2016年2月25日）（矢印はごく小規模な噴火を示す）

御嶽山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

2014年10月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いています。今期間、山頂火口からの噴煙は白色で、火口縁上300m以下で経過しています。

火山性地震は、少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状態には戻っていません。

地殻変動観測では火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意してください。

西之島【火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報】

これまでの観測によると、2013年11月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015年11月下旬以降はいずれも確認されていません。12月以降は地表面温度の低下が確認されています。

表面的な活動に低下が認められるものの、これまで2年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね1.5kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。

硫黄島【火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報】

火山性地震は少ない状態で経過しています。今期間、火山性微動を3回観測しました。火山性微動の発生時及びその前後で他の観測データに特段の変化は認められませんでした。GNSS²⁾観測によると、地殻変動は隆起・停滞を繰り返しています。2014年以降は、島の北部ほど隆起が大きい状態が継続しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では引き続き噴火に警戒してください。

福岡ノ場【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されるなど、やや活発な状態で経過しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

阿蘇山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

中岳第一火口では、今期間噴火は観測されていません。

遠望観測では、白色の噴煙が最高で火口縁上400mまで上がりました。

19日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁷⁾は、1日あたり800トン（前回18日300トン）とやや多い状態でした。

22日、24日に実施した現地調査では、中岳第一火口内に湯だまりを確認しました。22日の調査では土砂噴出を確認しましたが、高さは噴煙のため不明でした。

火山性微動の振幅は、大きな状態で経過しました（図3）。

GNSS²⁾連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、2015年8月頃からわずかな伸びの傾向が認められていましたが、11月頃から停滞しています。

中岳第一火口では、時々小規模な噴火が発生していることから、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生す

る可能性があります。

中岳第一火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾及び火砕流⁸⁾に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意してください。

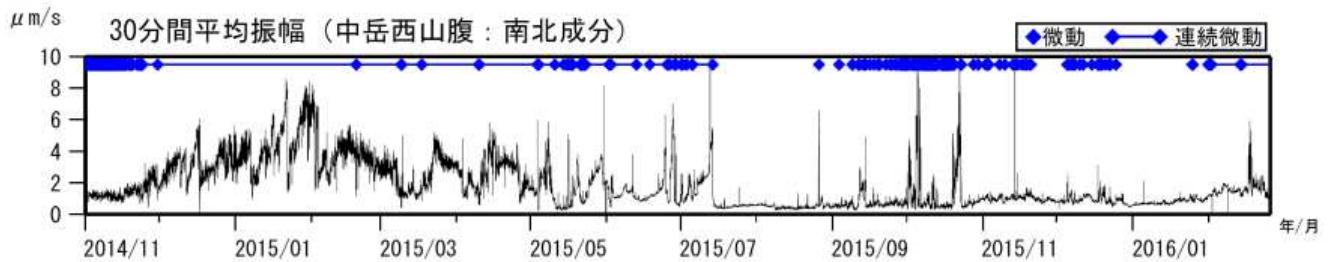


図3 阿蘇山 火山性微動の30分間平均振幅（2014年11月1日～2016年2月25日）

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

新燃岳では、23日に火山性地震が増加し、158回発生しました。火山性地震が1日に150回以上発生したのは、2011年9月5日の162回以来です。その後は、次第に減少しています（図4）。火山性微動は観測されていません。傾斜計¹⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

24日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が行った現地調査及び鹿児島県の協力を得て実施した上空からの観測では、新燃岳の火口内及び火口外の西側斜面の割れ目付近の形状や噴煙の状況に特段の変化は認められませんでした。

赤外熱映像装置⁹⁾による観測では、火口内の溶岩の縁辺部及び火口外の西側斜面の割れ目の一部に、引き続きやや温度の高い部分が認められましたが、前回（2015年2月20日）の観測と比べ新たな熱異常域はなく、特段の変化は認められませんでした。

GNSS²⁾連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかな伸びの傾向が認められていましたが、2015年10月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき¹⁰⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

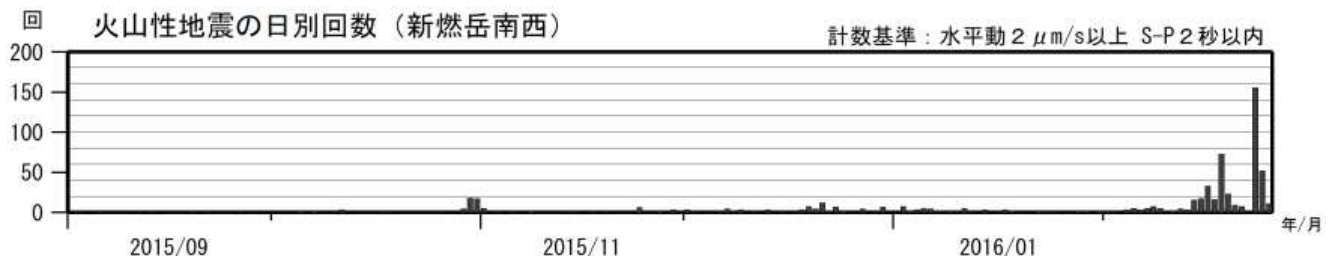


図4 霧島山（新燃岳） 火山性地震の日別回数（2015年9月1日～2016年2月25日）

桜島【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

桜島では、活発な噴火活動が続いています。

昭和火口では、爆発的噴火が5回発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾が最大4合目（昭和火口より800～1,300m）まで達しました。南岳山頂火口では、20日にごく小規模な噴火が発生しました。

火山性地震は、少ない状態で経過しています。また、振幅の小さな火山性微動が発生しています。

19日と25日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁷⁾は、1日あたり100～500トン（前回6日100トン）とやや少ない状態でした。

地殻変動観測では、始良カルデラの膨張が続いていることから、火山活動のさらなる活発化の可能性もあり、火山活動の推移に注意が必要です。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾及び火砕流⁸⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき¹⁰⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

口永良部島【噴火警報（噴火警戒レベル5、避難）及び火山現象に関する海上警報】

新岳では、2015年6月19日の噴火後、噴火は観測されていません。

遠望観測では、白色の噴煙が最高で火口縁上 300mまで上がりました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。

現地調査では、期間を通して火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られませんでした。また、赤外熱映像装置⁹⁾による観測では、2015 年 3 月頃から 5 月 29 日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の熱異常域の温度は、引き続き低下した状態であることを確認しました。

噴火に伴う大きな噴石³⁾の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 kmの範囲及び火砕流⁸⁾の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が遠方まで風に流されて降るため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

御岳火口では、ごく小規模な噴火が時々発生し、噴煙が最高で火口縁上 600mまで上がりました。同火口では、夜間に高感度カメラで火映⁵⁾を時々観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は時々発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるので注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

三宅島【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

22 日から 23 日にかけて振幅の小さい継続時間約 5 時間 35 分の火山性微動を観測しました。このほか、23 日に継続時間 5 ～ 8 分の火山性微動を 3 回観測しました。その後火山性微動は観測されていません。

遠望カメラでは、火山性微動の発生時は、視界不良のため表面現象を確認できませんでした。

火山性微動発生後の 23 日に実施した現地調査では、火口内に噴出物の痕跡等の異常は認められませんでした。

山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しています。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁷⁾は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過しています。

火口内では噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、山頂火口内及び主火孔から 500m以内では火山灰噴出に警戒してください。また、火山ガスの放出が継続していることから、風下にあたる地域では火山ガスに注意してください。

九重山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

九重山では 21 日に火山性地震が一時的に増加し、22 回観測しました。その後は、少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

22 日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が現地調査を実施しました。硫黄山付近では白色の噴煙が最高で噴気孔上 20m程度上がっており、噴煙の増加などは認められませんでした。また、噴気地帯における熱異常域の拡大等は認められませんでした。

地殻変動観測では、GNSS²⁾連続観測の一部の基線で 2012 年頃からわずかな伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）【噴火予報（活火山であることに留意）】

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

24 日に実施した現地調査では、硫黄山の火口周辺で引き続き噴気活動が認められましたが、強風のため詳細な状況については、確認できませんでした。赤外熱映像装置⁹⁾による観測では、火口内の南から南西側及び火口南側斜面で、これまでの観測に引き続き熱異常域を確認しました。

2015 年 7 月頃から継続時間約 2 ～ 5 分の火山性微動が時々発生し、それに伴い硫黄山の北西方向が一時的に上がり、しばらくして戻るような傾斜変動が観測されています。また、硫黄山付近が隆起する変動も観測されています。

2015 年 12 月 14 日以降、噴気や熱異常域及び硫化水素臭を確認しており、熱異常域には拡大傾向が認められます。

えびの高原（硫黄山）周辺では、火山活動がやや高まってきていますので、今後の火山活動の推移に注

意してください。また、硫黄山付近では、火山ガスにも注意してください。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 μ rad (マイクロラジアン) は1 km 先が1 mm 上下するような変化量です。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 3) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 4) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。
- 5) 火映は赤熱した溶岩や高温のガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 6) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器を用いて、山体の膨張や収縮による距離の変化を観測します。
- 7) 火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた水蒸気や二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマが浅部へ上昇するとその放出量が増加します。気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。
- 8) 火山灰や岩塊、空気や水蒸気为一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十 km から百数十 km、温度は数百℃にも達することがあります。
- 9) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 10) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。
詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

表2 火山現象に関する警報等の発表履歴 (平成28年2月19日～2月25日)

発表日時	火山名	特別警報・ 警報・予報	概 要
21日 18時41分	桜島	降灰予報 (速報)	噴火発生から1時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想
21日 18時55分		降灰予報 (詳細)	噴火発生から6時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想
毎日 02時から3時間 毎に8回	阿蘇山 桜島 口永良部島 諏訪之瀬島	降灰予報 (定時)	噴火した場合に予想される、降灰範囲及び小さな噴石の落下範囲を予想

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山	
噴火警戒レベル (キーワード)		警報・予報	警戒事項等 (キーワード)
レベル5 (避難) ※		噴火警報	居住地域嚴重警戒※
レベル4 (避難準備) ※			
レベル3 (入山規制)		火口周辺警報	入山危険
レベル2 (火口周辺規制)			火口周辺危険
レベル1 (活火山であることに留意)		噴火予報	活火山であることに留意

海底火山については、噴火警報 (周辺海域) (キーワード: 周辺海域警戒) と噴火予報 (キーワード: 活火山であることに留意) で発表します。

※印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。